

市民ウォーク「鮎鯨街道」

笠松では小中学生が鮎鯨荷を運ぶ



江戸時代に鮎鯨を運んだ街道を歩く小中学生たち

江戸時代、将軍に献上する鮎鯨を運んだ「鮎鯨街道」を歩く「市民ウォーク鮎鯨街道」が9月23日に開催され、岐阜市から笠松町までの約9kmのコースを「鮎鯨荷」とぎふ清流国体の「炬火」と一緒に、多数の皆さんが歩かれました。

笠松エリアは笠松小、松枝小、下羽栗小の6年生と笠松中学校の生徒が鮎鯨荷を担ぎ、元気いっぱい先導しました。

途中の休憩所となった福社会館では、道德のまち推進会議の皆さんが町民の力作の展示やお茶の接待などの「オレンジ日和」で一行をおもてなしされました。

また、到着した笠松みなと公園では、歩き終えた皆さんに手作りの「鮎雑炊」と「鮎鯨」が振る舞われました。

名鉄ハイキングでおもてなし

名鉄沿線ハイキング「笠松歴史探訪と笠松刑務所矯正展」が、10月13日に新木曾川駅をスタートし、笠松駅を目指す約7kmのコースで開催されました。

秋晴れの良い天気にも恵まれ、県内外から約2,500人が笠松町内を歩き、町内の8か所で、住民の皆さんによる心からおもてなしを満喫しました。

おもてなしの中心となったのは、町民有志の「かさまつ超おもてなし隊」のメンバーで、この日のハイキングのため会合を重ね、町外の人に笠松を知っていただき、参加者に楽しんでもらおうという思いで取り組みました。

笠松の名所である石畳や陣屋県庁跡、鮎鯨街道では、説明看板を設置し、歴史の説明をしました。笠松みなと公園のあずまやや本町通りでは笠松名物の物販、随所でお茶などが振る舞われ、参加者の皆さんは「笠松町のおもてなしはすごいね」と話していました。



笠松湊と石畳の説明を受ける皆さん



あずまやで笠松の名物を購入する皆さん



陣屋県庁跡ではお茶のおもてなし



笠松中学校南側で休憩する皆さん